

《各種がん検診の注意事項》

安全で有効に検診を受けて頂くためには、様々な注意点があります。安全のため、集団検診での受診ではなく、主治医やかかりつけ医での受診をお奨めする場合がありますのでご了承ください。事前に受診する項目の内容をよく読んで来てください。



肺がん検診



原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 妊婦および妊娠している可能性のある人
- ★ 医療機関で肺がんの治療中または経過観察中の人(既往がある人)
- ★ 医療機関で、結核、その他の呼吸器疾患の治療を受けている人
- ★ 6か月以内に血痰があった人
- ★ 過去3か月の間に、胸のレントゲンやCTを撮った人

※ 令和8年度から、国のがん検診の指針改正に伴い、**喀痰細胞診検査**は実施しません。



胃がん検診



胃がん検診の受診を希望される人へ

- ◎ 受診前日の**午後10時以降**から当日検診終了まで、何も食べないでください。
- ◎ **当日の朝7時まで**にコップ1杯程度(約150ml)の水は飲んでもかまいません。(お茶、牛乳などを飲むと検査ができません。7時以降に水を飲んだ人も受けることができません。)
- ◎ 内服薬(**血糖降下剤を除く**)は、当日朝7時までコップ1杯程度(約150ml)の水で服薬してください。
- ◎ 当日の喫煙やガムは避けてください。

原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 血圧が(上)180mmHgまたは(下)110mmHg以上
- ★ 今までに胃、食道、十二指腸、腸の手術を受けた人
- ★ 医療機関で胃がんや胃腸疾患で治療中・経過観察中の人
- ★ 消化管に急性出血・穿孔・閉塞のある人、生ずるおそれのある人
- ★ 大腸憩室炎の既往がある人
- ★ 過去一年以内に心疾患や脳血管疾患の発作、または手術を受けた人
- ★ 誤嚥をおこす恐れのある人(高齢者、脳梗塞・脳出血後、嚥下困難、喘息など)
- ★ 硫酸バリウム製剤に対し、過敏症(喘息、じんましんなど)の既往歴がある人
- ★ 今までに医療品や食品などで過敏反応を起こしたことがある人
- ★ 喘息、アトピー性皮膚炎などがある人
- ★ 便秘気味(3日以上)の人
- ★ 体調不良の人
- ★ 高齢(76歳以上)の人
- ★ 認知症や精神疾患があり、指示通りに動くことのできない人
- ★ 自力で体位変換が困難な人
- ★ 妊婦、妊娠している可能性のある人、授乳中の産婦
- ★ メニエール病の人
- ★ 人工透析中の人
- ★ 全身衰弱の強い人



子宮頸がん検診



原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 子宮全摘手術を受けた人
- ★ 妊娠中の人
- ★ 医療機関で子宮疾患の治療中・経過観察中の人
- ★ 生理中、生理が終わって2日以内の人



乳がん検診



乳がん検診の受診を希望される人へ

◎ 40歳以上の方は受診できます。ただし、昨年度受診された方は対象となりません。

原則的に集団検診では実施できない人

- ★ 妊婦および妊娠している可能性のある人
- ★ 乳房内に器具・装置等を留置している人
- ★ 医療機関で乳がん、乳腺疾患の治療中・経過観察中の人
- ★ 授乳中の人、断乳後6か月以内の人
- ★ 豊胸術を受けている人
- ★ シヤントの留置をしている人 → 圧迫時、逆流する可能性がある

問診や放射線技師の判断で、受診の可否を決める人

- ★ 腕が上がらない人(リウマチ・五十肩・神経痛)
- ★ 胸郭・脊椎変形、脊柱側弯のある人
- ★ 出血傾向のある人(血小板減少症など)
- ★ 乳房の手術を受けた人



大腸がん検診



大腸がん検診の受診を希望される人へ

- ◎ 痔疾患など出血症状のある方は、結果が陽性になる可能性があります、その場合でも自己判断をせずに、必ず精密検査を受診してください。
- ◎ 生理中の場合には、出血により結果が陽性になる可能性があります。別の機会に受診されることをお奨めします。
- ◎ 下痢をしている場合には、便の成分が少なく採取されがちです。症状がおさまってから受診されることをおすすめします。
- ※ 検診の有効性は確立されていますが、病変の部位により発見しにくい場合や出血が少ない場所を採便していた場合(偽陰性)、他の要因での出血により、がんでなくても精密検査が必要と判定される場合(偽陽性)があります。制度を高めるために採便方法を確認し2日分の便を提出してください。

原則的に集団健診では実施できない人

- ★ 医療機関で大腸がん、大腸疾患の治療中・経過観察中の人

前立腺がん検診



前立腺がん検診の受診を希望される人へ

- ◎ 前立腺がんを見つけるための検査です。前立腺肥大症などの治療及び経過観察中の人は受診できません。PSA値の経過観察のための利用はできません。

がん検診は適度に高い発見率が期待でき、早期発見により、がんによる死亡を減らすことができますが、**どのがん検査も目的のがんを100%見つけることができるものではありません。**「異常認めず」という結果であっても過信せず、今後も検診を受け、症状がある場合は医療機関を受診するなど、がん予防を心がけることが重要です。また、「要精密検査」という結果が出た場合は、必ず医療機関を受診し、精密検査を受けるようにしてください。